

※最新版は

https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series
から直接ダウンロードできます。



特別支援教育リーフ Vol.12

急な予定の変更に対応することが 苦手な子供の理解と支援



独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

インターネットによる講義配信もあります。詳しくは「[NISE 学びラボ](#)」へ



学校生活を安心して過ごすための“見通し”とは

子供たちが学校生活を主体的に過ごすための手がかりとして、“見通し”があります。この“見通し”には、“行事は何月何日にあるのか”、“今日は何の授業があるのか”などのスケジュールに関するものや、“授業の進め方”“授業内容”といった学習活動に関するもの、“昼休みに〇〇さんと遊ぶ約束をした”“今日の給食は大好きな□□だ”などの子供の興味・関心等に関するものなどが考えられます。子供たちはこれらを予測し、学校生活を期待したり、苦手な学習等があれば不安を感じたりしながら、日々の学校生活を過ごしています。

急な予定の変更への対応が困難となっている要因の一つに、子供の“見通し”が関係していると考えられ、先生の関わり方や学級内の環境の調整が必要となります。

◆子供が“見通し”をもって、安心して学校生活を送ることができるような支援や配慮を考えてみましょう。

急な予定の変更への対応は、誰にとっても難しい...

皆さんは、“スポーツ観戦が雨で急に中止になってしまった”、“大好きな歌手のコンサートなのにダイヤの乱れで鉄道が動かない”といった状況が起こった時、どんな気持ちになりますか？不安や焦りの気持ちが高まって、落ち着かない状態になるのではないのでしょうか。反対に、突然に友人からプレゼントをもらうなど、予期していなかったことでも自分にとって良いことだったらどうでしょう？きっと嬉しい気持ちになるのではないのでしょうか。

学校生活の中でも、急な予定の変更は多々生じることですが、その対応の難しさには、子供一人一人の性格や特性、その時の感情などが大きく関係しています。例えば、急な予定の変更が自分にとってマイナスイメージなことであれば、イライラしたり、暴言を吐いたり、その後の授業に上手く参加できなくなったりするかもしれません。

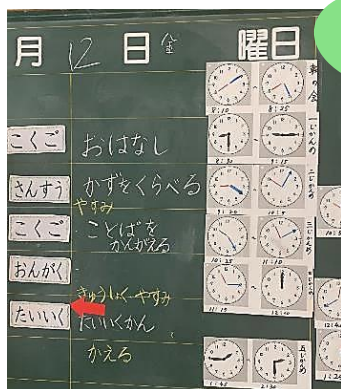
また、特定の物や手順へのこだわりがある子供や、周囲の雰囲気を感じることが苦手な子供、曖昧な表現や会話の行間を読んだりすることが苦手な子供もいます。そのような子供にとっては、突発的な出来事や本人が予測し得なかった変更が生じた時に、状況の把握ができずに混乱して教室から飛び出したり、泣いてしまったりすることもあるでしょう。



子供一人一人の性格や特性、その時の感情などを先生が理解したうえで、状況の変化を視覚的に伝えたり、どうするとよいかを具体的に伝えたり、「困ったことがあったら先生に相談してね」と子供に促したりするなどの働きかけが、子供の不安な状況を緩和させることにつながります。そのような関わりを通して、子供の自己肯定感や自己効力感などが高まると、気持ちを切り替えて主体的に活動に参加できるようになったり、先生や友達と適切なコミュニケーションをとることができるようになったりします。そのためにも、分かりやすい学習環境を整えたり、子供が適切な社会的行動を獲得したり、適切な理解と表出に向けたコミュニケーション手段を身に付けたりすることができる指導・支援を心がけましょう。

“見通し”への配慮

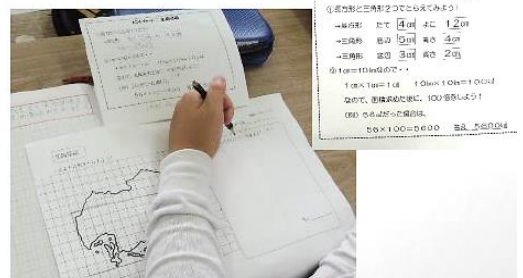
○見通しのもてる予定「一日の流れ」 ※写真は小学校（通常の学級）1年生の黒板です。



Point

予定の変更が生じた時には、その理由を“書いて伝える”と変更に対する納得が得られやすくなります。また、変更が生じそうな事項について、事前に情報として伝えたり、掲示物で確認できるようにしたりして、変更への“構え”を子供が作れるようにしておきましょう。

○見てわかる授業の工夫



Point

授業の流れがつかみやすい板書や授業の流れをある程度統一すると、見通しをもった授業参加が可能となります。個々の学習活動の際には、ヒントカードなどを用意して、安心して学習に取り組めるようにしましょう。
※ヒントカードなどの手立ては、誰にでも使えるものとして提供しましょう。

○急な予定の変更に対応することが難しい子供への関わり

Point

「困った」ってよく相談してくれたね！



- ・「〇〇をやるよ」など具体的に指示やルールを伝えたり、モデルを見せたりして、今からやることや子供ができそうなことを具体的に伝えましょう。
- ・「手伝って」「わからないから教えて」「もう一回言って」などが言える雰囲気づくりを心がけましょう。
- ・「最悪」「無理」「だって・・・」といった後ろ向きな言葉を言う子供には、「こんな日もあるさ」「一緒にやってみようか」などの言葉を添えて、子供がポジティブ思考になるきっかけを作りましょう。
- ・気持ちを切り替えられたこと、頑張ったことなどを子供に伝えて、頑張った自分を振り返る機会を作りましょう。

☆さらなる理解のために☆

急な予定の変更に対応することについて、自閉症スペクトラム障害の特性のある子供は特に難しさを感じる事が考えられます。それは、「周囲の状況に意識を向けることや経験したことを他の場面に結び付けて対応することの難しい」、「特定の行動に固執し、次の活動や場面に切り換えることの難しい」といったこだわりがあること、本人を取り巻く環境（物理的な環境、先生、友達、状況等）の情報や刺激が偏った形で、そして独特な感覚で捉えることから、全体像として状況を把握することを苦手とするからです。

自閉症の子供への支援・配慮の原則として、イギリス自閉症協会は「SPELL（スペル）」を提唱しています。

- Structure** … 何をどうする、終わりの明示など、具体的な見通しを視覚支援でわかりやすく提供する一貫性のある環境
- Positive** … 肯定的な表現、肯定的な枠組み（罰を与えるのではなく褒める流れに）、（肯定的な関わり） 成功体験を積み自尊心向上
- Empathy** … 自閉症の特性のあるその人が何をどのように体験し、どのような心理状態にあるのか理解しようとする姿勢（共感）
- Low arousal** … 興奮やストレスを不用意に招かないようにする環境整備、関わり方の工夫（低興奮・低刺激） 夫（不快さを低減し安心を増やす）
- Links** … 家庭や地域、教育、医療、福祉など、本人や家族を中心においたチーム作り（連携）

<参考情報>

[○文部科学省「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」](#)



障害のある子供の「教育的ニーズ」を整理するための考え方や、就学先の学校や学びの場を判断する際に重視すべき事項が障害種ごとに具体的に記載されています。

[○山口県教育委員会「通常の学級における特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりの進め方」](#)



通常の学級での特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりの進め方について、ユニバーサルデザインを意識した一斉指導の工夫や学習上の困難さに応じた個別的な支援の例が掲載されています。

[○The National Autistic Society](#)



イングランド、スコットランド、北アイルランド、ウェールズの自閉症の子供への教育に関する情報等が掲載されています。

[○独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 NISE 学びラボ「通常の学級における自閉症スペクトラム障害（ASD）のある児童生徒の指導の対応」](#)



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

★NISEのホームページ

<https://www.nise.go.jp/nc/>



編集 情報・支援部

TEL 046-839-6803（代表）

初版発行 令和6年1月